

2009

10

目次
CONTENTS

2 議会 第3回定例会

4 ぴちぴち那珂っこ

6 歴史民俗資料館だより 水鳥

8 ふるさとづくり寄付

9 協働のまちづくり
市民活動団体を紹介します

10 100歳おめでとうございます ほか

11 まちの話題

14 Information

16 1歳6か月児・3歳児健康診査 ほか

18 さわやかさん、表紙の裏側 ほか



「災害は忘れたころにやってくる」日ごろの準備と心構え（防災訓練）

水鳥

10

郷土の 幕末の志士

水戸藩主には武田信吉や徳川頼宣の時期もありましたが、水戸徳川家初代頼房が藩主となった慶長14年（1609）から数え今年が400年となります。その記念として県内では桜田門外の変の映画化なども進められ、「幕末」に人々の関心が集まっています。この時期は、内憂外患が迫って幕府政治が行き詰まり、そのため変革を求めて大きく動き出した時期でもありました。

このような中、自らの熱い信念を持ち、時代のさがけとして奔走した人々がこの那珂市域にも存在したという事実を、展示をとおして直に感じ取っていただきたいと思います。期間は10月31日（土）から12月13日（日）までです。

1 徳川斉昭と那珂市域



徳川斉昭肖像（所蔵：幕末と明治の博物館）

① 9代藩主斉昭

9代藩主斉昭は「民は国の本なり」、「君は民の父母なり」をモットーとし、「愛民専一」の信念を持って理想を実現しようとした行動的な藩主でした。そこで藩政改革の具体策として、第一に海岸防備を含めての武士の土着、第二に土地所有の確認をする「検地」、第三に教育を重視して藩校「弘道館」の建設、第四に経費削減として江戸在住の藩士を水戸へ戻すことをあげました。

その中の「検地」では、「検地帳」と「絵図」が二部作成され、藩と村に保管されました。飯田の大和田家にはこのときの検地帳や寛永の検地帳（390年前）が残っており、鴻巣の畔野家には実際に検地を行っている貴重な絵図（天保期）が保存されています。

② 社寺改革

江戸時代にはキリスト教対策として檀家制度がとられたため、どこの家もいづれかの寺院の檀家となり、寺領とともに寺院は保護されました。そのため、中には不行跡な僧侶も現れ、幕府や藩からしばしば警告が発せられました。社寺改革にはこのような背景もありましたが、斉昭は幕末の海防策のために梵鐘の供出を命じました。向山常福寺などは、水戸家の菩提寺でしたが、そのために廃寺などの処分対象となりました。反対に、神社は崇敬され、安政4年（1857）には菅谷鹿島神社が創設されました。



菅谷鹿島神社

幕末の那珂市域展

歴史民俗資料館

10月31日（土）～12月13日（日）

③ 斉昭ゆかりの家々

① 農人形 斉昭の「愛民」を示すものに農民の座像「農人形」があります。斉昭は「朝な夕な飯くうごとに忘れじな恵まぬ民に恵まるる身は」と詠んだように、朝夕ご飯を供えて感謝の念を捧げてから食したといわれています。実物は3センチメートルほどのブロンズ像ですが、藩内では方々で作られました。那珂三中には、寄贈された大きな木彫りの農人形が保存されています。



農人形（所蔵：那珂第三中学校）

② 訪ねた家々

斉昭は、藩内の様子を知るために水戸へ帰国すると方々を訪ねました。静神社や常福寺へも参詣し、その前後に由緒ある家々を訪ねています。市内では菅谷横須賀家、額田南郷鈴木家、鴻巣宝幢院などを訪ね歌も詠んでいます。



鈴木家住宅（県指定文化財）

この里のさかえしられていもの子もあまたに出て見ゆる楽しさ

玉椿いろもにほいも八十あまり
四年は花の初とそ見る（鈴木家）

ふる雨にはるはる来つつぬきあたふ
これをかたミの衣とおもへ（宝幢院）

また、斉昭の子で最後の將軍慶喜が、亡き母登美宮を瑞龍墓所へ埋葬しての帰途、額田北郷寺門家へ宿泊しています。ところで、到着した慶喜は座敷へ通されても安座されないう。心配した治平は、もしやと思いい床の間の掛物を替えた。慶喜はやつと安座された。父斉昭筆の掛物であった。父を背に安座はできないとの慶喜の心根に感嘆させられます。

寺門家には、その時の枕屏風が保存されています。

③ 藤田幽谷・東湖父子顕彰碑

藤田東湖は幕府老中阿部正弘や薩摩藩の西郷隆盛、長州藩の吉田松陰、越前藩の橋本左内らの尊敬の的となり、弘道館記の解説文「弘道館記述義」や藩政改革を記した「常陸帯」、自分史である「回天詩史」などは多くの志士たちに大きな影響を与えました。東湖の父幽谷の祖父が水戸へ移るまで飯田中島に住まっていたことか、地元住民たちによって昭和12年に顕彰碑が建てられています。



藤田幽谷・東湖顕彰碑（中島共同墓地）

2 斉昭の雪冤運動

弘化元年（1844）、斉昭は厳しい寺院破却や弘道館の土手を高くしたことなど七カ条の嫌疑で幕府から隠居させられました。その不当な処分を赦してもらおうと、本米崎村の福地理右衛門や戸村の阿久津藤左衛門、松山伴七、鹿島縫殿衛門など多くの領民が東木倉清水原に集結し、さらに江戸まで上って老中などに嘆願運動を起こしました。しかし、そ

の最後は悲惨で、阿久津藤左衛門は、

浮舟のとも綱とひて真帆かけて嵐の浪に身は沈むとも

の辞世を残して獄死しています。



阿久津藤左衛門墓碑（田崎共同墓地）

3 桜田門外の変

大老井伊直弼が勅許を受けずに日米通商条約を結んだことに抗議した斉昭・慶篤父子をはじめ反幕的行動を起こした藩士たちを罰した安政の大獄に危機感を抱いた水戸・薩摩藩の武士や神官たち18人は、政治の改革を求めて脱藩し、桜田門外で井伊大老を襲撃しました。この中には静神社の神官斎藤監物や本米崎三島神社の神官海後嵯峨之介も入っています。斎藤は決行後まもなく死亡しますが、海後は明治時代まで生き延びました。この事件により、幕府は急速に弱体化し崩壊に進みました。



海後嵯峨之介『わが郷土』より

4 天狗・諸生の争乱

水戸藩内も、攘夷の実行を巡って対立しました。実行を主張する藤田小四郎ら天狗派とそれに反対する市川三左衛門ら諸生派。市域も二派に分かれ混迷に陥りました。小宅家には諸生派の肩章が残っています。本米崎から額田原は両派の戦場となり、上宮寺や向山常福寺・引接寺などが焼かれました。水戸藩は、この争乱で多くの人材を失い、「東湖がいたら対立は防げたのではないか」とその圧死が惜しまれました。



向山常福寺跡（額田南郷）

藤田東湖をめぐる人々

- ◆日時 11月28日(土) 10:00~11:30
- ◆場所 那珂総合公園 2階会議室
- ◆講師 歴史民俗資料館 館長 仲田昭一
学芸員 中嶋圭子
- ◆参加費 無料 ◆定員 40人
- 国史民俗資料館 ☎297-0080

講演会のご案内